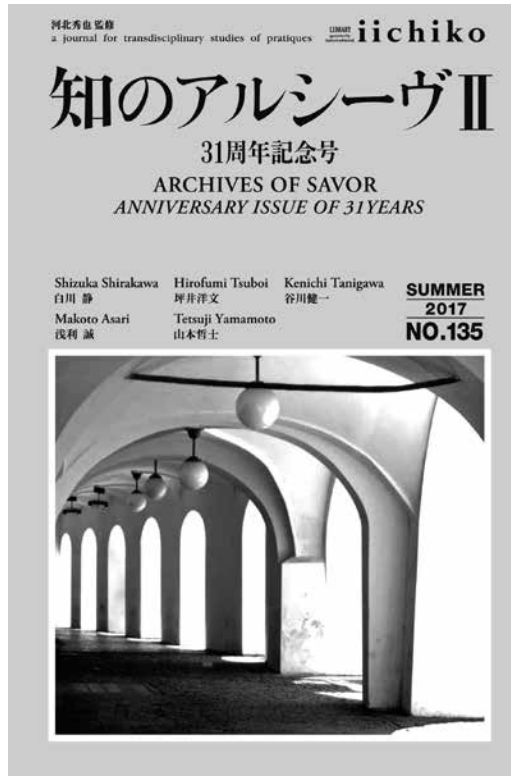


『知のアルシーヴ』 ~31周年記念号~

LIBRARY ICHIKO 135 SUMMER 2017 7月31日 発売予定



「知のアルシーヴ」の日本版である。白川静、坪井洋文、谷川健一という大学者たちをとりあげている。加えて、藤井貞和、吉本隆明の両氏を入れたかったのだが、紙面が足りず断念した。一九八六年の本誌の発刊から、数年間は、本誌が基軸・基盤にしていく指標となるものを探し当てていた。プラチツクII 実際行為の場所存在、自分の思考を規定からいかひきつぐかを、模索していた。そこでこちらが選択した、偉大な考証をなしていた方々は、気さくに対応してくださった。超領域の専門水準を開いていく可能条件を、領有していくことであった。基本は、ナショナルな統合の一元制に日本はないこと、多様な場所文化の多元存在が文化資本となつて、国家資本へ構成されたり排斥されたりしている、そこを見定めていくには、規準軸をしっかりと持たねばならない。すでに意味されたものの精緻化を進めるだけで、意味するものの作用の創出をなさない既存の大学アカデミズムでは、それがなされていないゆえ、対象となる方たちは限られていたが、対象それ自体は未踏で無限に広がっている、そこへの規準軸の地盤布置である。この五氏は、世界線で日本文化が働きうる普遍的な志向性を十分に深みを持っておられる。本誌が核としてすえた偉大なる思考者であられる。民俗・人類学と精神分析と文学を指標に、社会科学・人文科学の理論成果を重ね合わせていくことであつた。

二〇年後、本誌は、その間の場所、資本、ホスピタリティの検証を経て、日本文化プラチツクの非分離、述語制、場所、非自己の原理をさぐり当てていくのだが、非自己においては精神分析と太宰治の文学とを経て見出されたものだ。西田哲学や武術、そしてカラー頁での伝統文化技術などの検証が、なされてのことだ。ただの雑誌編集ではない、世界を知的に歩くということも含めての探究であり、日本から世界を観る、世界から日本を観るの相互変容から、言説生産への多角的な方々の登場がなされていくことになった。知のフィールド研究である。それは、パリの社会科学高等研究院の諸メンバーとの交通から、文献・理論考察もフィールド研究だという示唆からなされたことである。凡庸な経験の実証はやっていない。例えば、岡本哲志氏のような徹底した場所フィールドを掲載してきた。

三〇年とは、まだ壮年期である。こちらはもう老人の関へと入ってはいるが、本誌の成熟期へ向けて、文化のさらなる根元へと突き進む。それは「歴史を作っていく」段階への歩みになる。

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇一七年十月末発行予定

【監修・アートディレクター】
河北秀也 (かわきた ひでや)
1947年生まれ。
日本ペリエールアートセンター主宰。
著書に『デザイン原論』など。
本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】
山本哲士 (やまもと てつじ)
1948年生まれ。
政治社会学、ホスピタリティ環境学。
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、
『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』
『フーコー国家論』ほか多数。

ご注文は「RCC」へ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

知のアルシーヴ II

LIBRARY ICHIKO 135 SUMMER 2017 1500円 (税別)

ISBN 978-4-938710-26-2 C1010 ¥1500円

書店名

部数

冊

文化科学高等研究院出版局

Email: ehesc@gol.com

ehescbook.com